

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ興野123番地		
自己評価作成日	令和 6年 9月 30日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 10月 17日	評価結果決定日	令和 6年 11月 12日

(ユニット名 楽々)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のその人らしい生活が送れるよう、和やかな雰囲気の中で、ご自宅のように安心してくつろげる環境づくりを心掛けている。
多くの行事を取り入れて利用者様が楽しめるよう支援している。
感染対策を整え、どんな時でも利用者様とご家族様が面会できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲示し共有している。事業所の理念を常に念頭に置き、毎月のユニット会議にてケア目標を掲げ、職員間で共有し、より良い援助ができるよう努めている。その人らしい暮らしを尊重し、何がしたいか、どうしたいかを確認し、希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への参加や作品の出品、季節の祭りや行事にも参加し、馴染みの方や昔の知人との再会を楽しまれている方もいる。自治体にも施設が存在が浸透し、少しずつ交流が持てるように努力をしているが、コロナ禍であり、以前に比べるとあまり接触的に交流ができていない所(慰問等)もある。散歩や外出時に地域の方々と交流できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして活動し、認知症についての理解や協力を呼び掛けている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域の方にも参加頂き、利用者やサービス実施や施設での問題等を報告し、意見交換・情報交換を行っている。また、会議での意見等は職員に周知しサービス向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、行政の方との意見交換・情報交換を行っている。また、会議での意見等は職員に周知しサービス向上に活かしている。日頃から相談等を行い、積極的に協力関係を構築している。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束委員会にて話し合い、虐待の予防や兆候がないか年に2回虐待・拘束自己点検チェックシートを実施し、身体拘束防止に努めている。研修会等で拘束について学び、身体拘束となる具体的な行為などは理解できている。生活を守るケアに努め、工夫しながら身体拘束ゼロに取り組み、夜間の施錠は利用者様の安全上、致し方なく行っているが、他の拘束は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に開催し、年2回全職員へ虐待拘束自己点検チェックシートを実施し、スタッフ会議で結果を報告し改善点をあぶりだし、月目標に掲げるなどして改善するように意識している。各職員が日々のケアを振り返り見直すことでアンケートが行かされていると思う。内部研修・外部研修に参加し知識を身につけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加や伝達講習、回覧での情報共有を行い、理解を深めている。実際に後継人制度を利用している利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時に十分な説明を行っており、納得して頂けている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡などで要望等がないかご家族様へ確認している。利用者様へ対しては常日頃より聞き取り等行っている。また、玄関に意見箱を設置している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議やスタッフ会議などで意見を出し合うことができている。必要に応じ個人面談を行っている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有休等が取りやすい環境にある。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を定期的に実施し、外部講師を招いて研修を行い、外部研修に参加した職員から伝達講習を行って頂いたり復命書を回覧し、業務に活かすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会へ参加し、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、安心する声掛けを心掛け、実践している。困っている事、不安な事、要望などその背景にも配慮し、早期に対応し安心して過ごして頂けるよう支援している。入所初期はよく入眠できているか等、在宅との違いを把握し、理解に努めている。職員間での情報共有も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活の様子等を聞き取りし、心配・不安に思ふ事や要望を伺い、応えられるように努めている。利用者様共々安心して頂けるよう傾聴を行い、支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予防や緊急性、必要な支援を見極め、対応できている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にしながら自立支援を促し、できる事は継続できるよう、できない事は寄り添いながら支援をしている。利用者様一人ひとりの力に応じ、調理や食器拭き、掃除、洗濯物畳等を一緒に行い、生活を共にするもの同士関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様やご家族様の思いや絆を大切にし、共に支えていく関係を築いている。広報や毎月のお手紙で状況報告を行い、時にはご家族様の協力を得て自宅や外出支援をできるよう努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等で、ご利用者様同士関わることができている。難聴の利用者様には意思疎通ができるよう、ジェスチャーや筆談を用いる等している。利用者様一人ひとりの性格や感情の変化を理解するよう努め、利用者様同士の関係が円滑になるよう、時には間に入り関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や支援に努めている。必要に応じサービス事業所の紹介や提案等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様は日々の訴え等に耳を傾け、ご家族様の意見や思いを伺い、本人本位の暮らしができるようケアプランを作成している。身体状態に応じて変更を行い、一人ひとりに合ったケアプランで支援を行うことができている。認知症が重度の方等には開かれた質問を用いて日頃から希望等を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様に聞き取りを行い、把握に努めている。生活歴等を個人ファイルにまとめたり、ユニット会議を通じて把握に努めている。これまでの生活歴や習慣を大切に、生活環境を整えて安心してその人らしい生活を施設でも継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタル測定や毎日申し送りを行い、毎日の観察で変わった事等があれば連絡ノートを活用し現状・状態の変化を共有、把握している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らすために必要な情報を得る為に関係者と話し合ったり、3か月に一度モニタリングを行い、アセスメントとケアプランは半年に一度作成している。毎月のユニット会議などで必要なケア等について皆で話し合い、情報を共有し支援に反映されている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	都度個人記録に記入し、共有したりモニタリングに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズや背景を汲み取り、希望に添えるよう傾聴や相談を行い、要望に対し、柔軟な支援を心掛けている。希望があれば外出の機会を取り入れる等し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等へ参加し、楽しんで頂けるよう支援している。行きつけの床屋へ通われたり、これまでの関わりを継続できるよう支援している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の往診時や体調不良があれば随時状態を報告し、適切な医療を受けることができるよう努めている。受診結果の情報を共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいな変化や気づきでも施設の看護職員や主治医の看護師へ状態報告し相談して情報を共有し、利用者様の苦痛緩和に努めている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や退院時の調整等は管理者が医療相談室やかかりつけ医等と随時連絡を取り合い行っている。退院後も可能な限り施設で一緒に生活できるようにスムーズな退院に心掛け、退院後も適切なケアに努めている。入院される場合は看護サマリーを作成し、医療機関と連携している。ご家族様との連絡も密に行っている。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や状態変化等があれば緊急時・終末期について本人やご家族様に事前に確認し方針を共有している。体調不調があれば早期にご家族様へ報告し、重度化される前に今後の対応等を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見返し、急変時や事故発生時に備えている。研修委員会主催にて救急隊を招いての救急講習会を数年おきに実施している。感染症についても実演を交え、研修会を行っている。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速に適切な行動がとれるよう利用者様と共に年2度の防災訓練や、年に1度連絡網訓練を実施している。自治体の方にも参加を頂き協力体制も整えている。BCPが作成され、災害時に備えている。災害時の避難場所等も提示してある。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室等のノックを忘れずに心掛け、誇りやプライバシーを損ねない対応をするよう配慮している。利用者様の尊厳を常に意識しながら安心できる言葉掛け行い、敬語や丁寧な言葉遣いを日頃から心掛けている。利用者様の個人情報等を大きい声でしないよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前等に本人に服を選んで頂いたり、本人の思いや希望を優先している。開かれた質問で意思を表出できるよう支援している。写経や塗り絵、編み物等、好きな時間で趣味活動をして頂いている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを理解・把握し心地よい生活が送れるよう努めている。その日の気分や体調、状態に合わせて本人のペースを尊重しながら過ごして頂いている。休むか起きるか等も本人に確認し、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好みを尊重し、日頃から清潔感を心掛けて身なりを整え、髪にピン止めをしたり、その方らしい身だしなみができる支援している。自分で選べない方に関してもコーディネートを考えている。季節に応じたアドバイスや衣替えを行っている。行事の際は化粧等も楽しめるよう支援している。基礎化粧品や化粧品等も愛用の物を継続できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや切る作業、盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。給食委員会が中心となり嗜好調査を行ったり、行事食やパンバイキング等を定期的に行い、季節感や食の楽しみを感じて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度板や申し送りにて食事量・水分量を把握・共有している。水分にムセが見られる方にはトロミ剤を使用し、お茶が進まない方には嗜好飲料を提供し必要量が摂れるよう支援している。食事量が不足する方にはご家族様にも協力を頂き栄養補助食品を提供している。バランスの良いメニューを提供し、楽しく安全に食事ができるよう支援している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態・能力に合わせた援助法で毎食後口腔ケアを促し、必要に応じ介助にて口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。口腔ケアを嫌がる利用者様にはケアの必要性を説明し、行ってもらいようアプローチしている。必要に応じ、歯科往診の支援も行っている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないよう声掛けや誘導を行っている。下着等の上げ下げ等、自分で出来ることは行って頂き、自立支援を行っている。立位困難な利用者様でも可能な限りトイレで排泄ができるよう、職員二人体制で介助を行い、体操等で下肢筋力低下防止に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と相談し、便秘がちな方には下剤等を使用し排便コントロールを行っている。連日軽体操を行ったり、朝食前にコップ1杯の冷水や乳製品を勧めたり、水分を多くとるよう声掛けしたり、便秘の予防に心掛けている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回、決まった曜日はあるが、本人の希望にて変更している。湯の温度や入浴にかかる時間等も把握し一人ひとりに合わせている。転倒や事故等なくゆっくりと楽しんで頂きながら入浴施行している。拒否がある方には声掛けや誘導の仕方等工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ、居室やソファでくつろいだり休息がとれるよう環境を整えている。眠気がある方には臥床し休息するよう勧めている。季節に合わせ、衣類や掛物を調整し室温や湿度にも気を付けている。夜間、安眠できるよう、生活リズムを整えるよう支援している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、副作用等は理解できている。飲み忘れがないかトリプルチェックを行いながら事故がないよう服薬介助を行っている。症状に変化があった時はすぐに看護師や主治医に報告し共有している。新しく処方された内服薬があれば特に薬効や副作用症状がないか気を付けて観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫が得意な方には、ほつれた衣類等を縫って頂く等、毎日の日常生活において簡単な軽作業や家事を行い、個々の力に応じて役割を持つことで達成感を味わって頂けるよう努めている。感謝の気持ちも忘れずに伝えている。ドライブや季節を感じて頂けるよう行事を行い、気分転換を図っている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や日光浴をして気分転換に努めている。バスレク等で普段いけないような場所へ外出している。通院などご家族様との外出時に本人が行きたいと言っていた場所を伝える等情報提供している。ご家族様に協力を頂きながら自宅へ帰ったり外食や散髪等外出する機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お金を所持している利用者様はいるが、使用する事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より要望があった際は職員が間に入り、電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時快適に過ごして頂けるよう、温度・湿度管理・換気を行い時間帯に合わせて電気の明るさも調整し、休みやすい光度にしている。両ユニットの壁紙は毎月ごとに季節を感じて頂けるような作品を作成し掲示している。暖かで家庭的な雰囲気でも過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席等配慮し、トラブルがないよう見守りを行っている。居室で一人でテレビを見たい利用者様には意思を尊重しレク等無理強いしないようにしている。気の合う利用者様同士を同席にしたり、ソファで談笑されたり思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただいたり、馴染みの物やお好きな物を掲示したり、ご家族の写真や本人が書いた書道の作品を飾ったり、一人ひとりに合わせた居室づくりを心掛けている。希望があれば一緒に模様替えを行い、心地よく過ごして頂けるよう努めている。位牌を持参している方も数名いる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置されており、安全に配慮されている。一人ひとりの力やできる事を適切に把握し、家事手伝い等行っている。居室やトイレ等、分かりやすいよう工夫をし、迷うことを減らせるよう努めている。できる限り自立した生活が送れるよう、安全への環境整備にも努めている。		